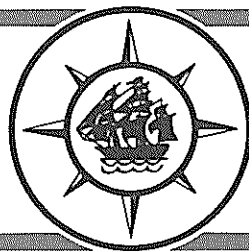


Operation Raleigh News

Operation
Raleigh

DENSO

No.22

昭和61年(1986)8月5日(火)
毎月1回発行●発行所 オペレーション・ローリー日本委員会
〒104 東京都中央区築地1-7-10 築地オーミビル502号
電話 東京(03)544-7413

●このオペレーション・ローリーニュースは日本電装株式会社のご協力で作られたものです。

学ぶべき英国人の自発性

ソロモン諸島フェイズ3 青年帰国インタビュー

Q1 当初のもくろみは？

土居 普通ではできない貴重な体験を通して、自分の視野を広げたいと思いました。

Q2 帰国後のORへの評価は？

土居 人のためでなく、自分を磨くために活動し、社会に貢献したいという英国人の基本的な考え方を、素晴らしいと思いました。

渡辺 先進国ばかりでなく、ソロモン諸島のような国の人々とも、一緒に活動できる場を得られ、感謝しています。

来住南 色々な意味で自分を試す良い機会でした。

Q3 苦労したことは？

渡辺・土居 ジャングルの中での食事です。

来住南 情報不足です。

Q4 楽しかったことは？

渡辺 すべて楽しい思い出です。

土居 海の美しさです。

来住南 現地の人との交流です。

Q5 異国人とふれあった感想は？

渡辺 日本人はまったくよく働くと感じました。

土居 外国人の自発的に仕事に取り組む姿勢に、反省させられました。

来住南 彼らの集団の運営方法は、役に立つと思いました。

Q6 一番印象的なこと、人物は？

渡辺 ベララベラ島でクリニックの修理をしたこと。

来住南 ジャングルのガイドたち。

Q7 有意義だったプロジェクトは？

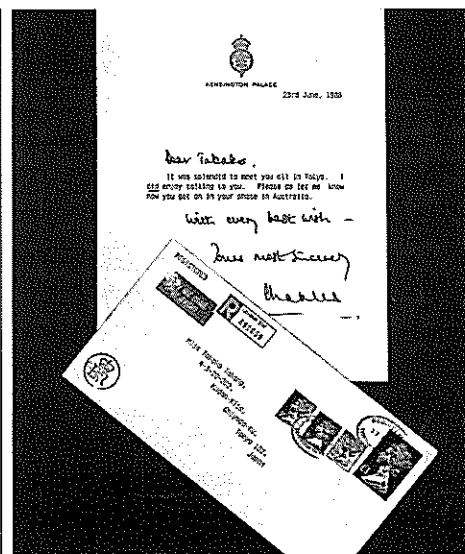
渡辺・来住南 メインプロジェクトのギゾーでの赤十字センター建設です。

Q8 日本人と外国人の違いは？

来住南 公の場での発言数。

渡辺 日本人は自分の行動に自信が

⑤

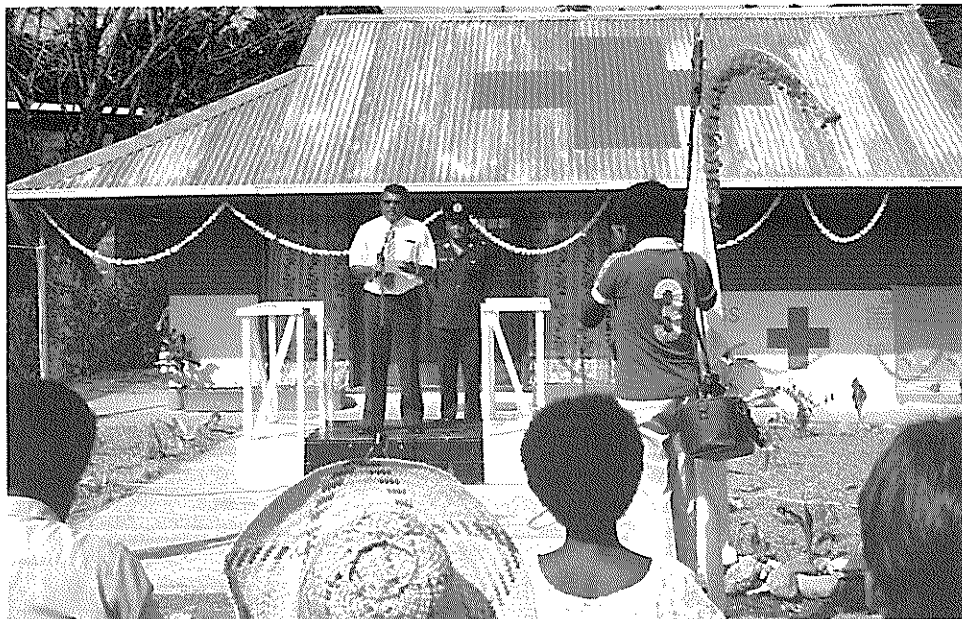
チャールズ殿下から
高野さんに親書

英国チャールズ皇太子と、OR J Cメンバー、日本代表青年たちの懇談の様子は、本紙No.20でご紹介しましたが、殿下にお会いしたメンバーの一人で、現在オーストラリアフェイズに参加中の高野孝子さん宛に、殿下から親書(写真)が届きました。内容は次の通りです。

親愛なる孝子さん

東京であなた方全員に会えたことは、素晴らしいことでした。とくにあなたと話してとても楽しかった。オーストラリアフェイズでの活動の様子を、ぜひ知らせてください。

成功を祈ります。



▲赤十字センター施設の竣工式(ソロモン諸島ギゾー)

ないのか、相手の反応を気にする。

Q9 今、最もしたいことは？

来住南 机に向かい静かに勉強。

土居 ORで得た各国の友人を訪ねて、3ヵ月ぐらい旅したい。

Q10 日本電装に関する反応は？

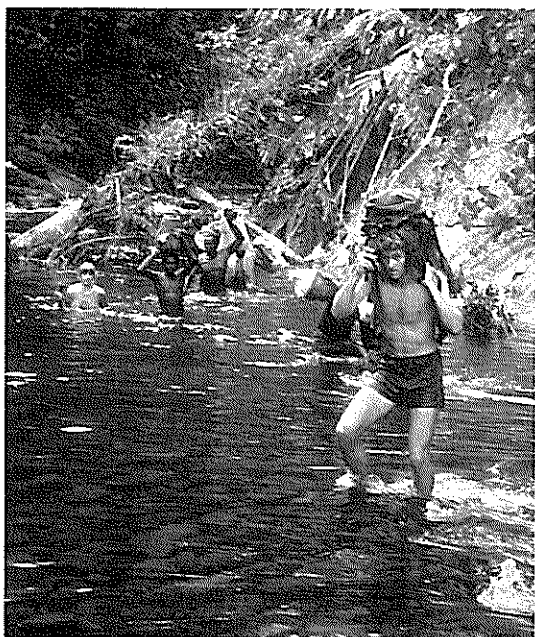
土居・渡辺・来住南 自分で資金調達をした外国人は、日本には理解あるスポンサーがいると、うらやましがっていました。

写真特集

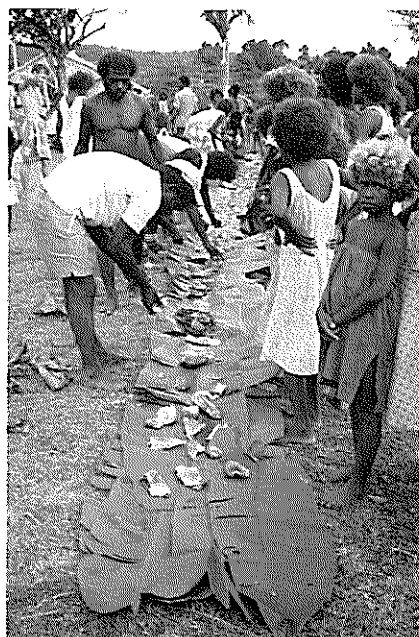
ソロモン諸島フェイズの記録



▲奉仕活動にもがんばりました(一輪車を押す来住南君)



▲荷物を背負って川を渡る



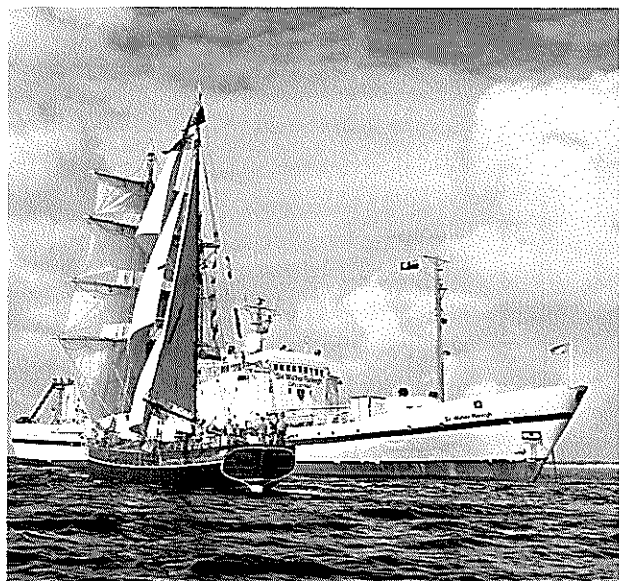
▲さあカメの肉でパーティー

楽しい思い出
そして仲間や環

1985年次派遣青年の第1陣と
た渡辺道雄君、来住南輝君、土
元気に帰国しました。おもに来
フェイズの模様をご紹介しまし
がらご覧ください。



▲ハンモックで記念撮影



▲旗艦SWR号と帆船ゼブ号(1985年1月バハマ)

帆船ゼブ号

火山噴火を見る
バヌアツのタンナ島

6月20日ニュージーランドのオー
クランド港を出航した帆船ゼブ号は
7月5日午後5時バヌアツ共和国の
首都ビラに到着しました。第1日目
に船の掃除と税関手続きをすませた
ベンチャーたちは、その後島を探
険し、寒いニュージーランドに比べ
て暖かいこの島の太陽を楽しんでい
ます。(ニュージーランド16℃に対し
て、バヌアツの気温は27℃です)

ニュージーランド
を去って以来ゼブ
号は1,310マイル航
行しました。バヌ
アツへの航海の途
中7月3日の夜に
はタンナ島の火山
が噴火している様
子を見ることができました。ゼ
ブ号にとって火山の噴火を見るのは
イ以来2度目です。

ゼブ号は7月9日までバヌア
滞り、その後他の島々を訪問
7月28日オーストラリア・クイ
ズランド州のケアーンス (OR
本部所在地) に到着する予定で

出・美しい自然 地の人々との交流

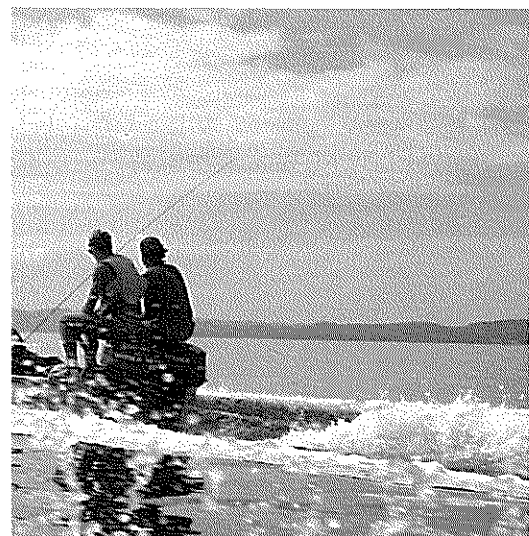
て、ソロモン諸島フェイズに参加している
雅紹君の三人は5月末から6月にかけて
南君が撮影したフィルムで、ソロモン・
う。1面の帰国インタビューを参照しな



▲現地人チームとバレーボールの親善試合



▲現地の人々と一緒にジャングルパトロール



▲モーターボートで出発

旗艦SWR号

先週(7月初め)
SWR号はゼブ号
との無線交信に成
功しました。これ
は両船がパナマで
別れて以来1年ぶ

りのことです。

SWR号は7月3日午後3時クック諸島のラロトンガ島に到着しました。強い風と荒れた海のためスケジュールは3~4日遅れていますが、ラロトンガで数人の科学者を乗船させ、ラロトンガとサモア諸島周辺でオウムガイの分布調査プロジェクト

を実施します。

SWR号は7月21日サモアに到着する予定です。

パプア・ニューギニア

登山グループ出発

パプア・ニューギニアのユル山、アルバート・エドワード山、ピクトリア山(いずれも3,000~4,000m級の高山)への登頂をめざした登山グループは7月中旬に出発しましたが結果は不明です。これらのグループは登山だけでなく、は虫類などの調査も兼ねています。

また、ポートモレスビーからミヨラまでのトレッキングも行なわれています。

さらにカヌーでポートモレスビーからフード・ポイントまで旅行するグループは途中6マイル沖の島でカヌーから降され、サバイバル・ツアーをするように命令されました。

豪州北部フェイズ終る

オーストラリア6Aフェイズの英国主力グループは現地での活動を終え、7月21日朝、ロンドン・ヒースロー空港に帰ってきました。

(ウィークリー・ブリテンNo.42~45より)



日本代表派遣青年のページ

現在、オーストラリア北部フェイズと、パプアニューギニアフェイズに参加し、活躍中のベンチャーから、近況報告の手紙が届きましたのでご紹介しましょう。

私を変えたOR

私は今、オーストラリアでの最終地グレゴリーです。冬とはいえ日差しが強く日焼け止めがいる程です。

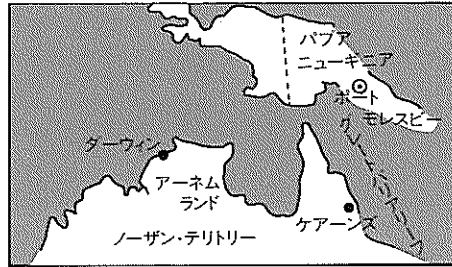
私はORに参加したことで、自分がどう変わったかをお話します。まず第一に、自分が今、意志に基づいて行動していると実感できることで、行動に対して深い喜びと満足を感じられるということ、第二には世界の同年代の人々と活動を共にすることで、習慣や文化の違いを越えた一体感が得られ、世界観が変わったことです。私はORに参加できたことを感謝するとともに、残り3週間頑張りたいと思います。

(6月30日・福井健)

野牛の生態調査

期待していたアーネムランドのバッファローの生態調査の延期で、今キャサリン・ゴージ国立公園の中で生活しています。ここでは5日間が観光客のための山道作りのボランティアで、残りの3日間はブッシュでキャンプをしながらの動物の生態調査でした。撃ち殺したバッファ

ローを解剖し、細菌の有無を調べるのですが、目の前で牛の首をはね、内臓をえぐり、血がふきだすといった光景は忘れることができないと思います。明日から、いよいよアーネムランドのプロジェクト。僕はその10人のパーティが大変気に入っています。(7月9日・藤本圭太)



これからORに参加する皆さんへ

私は今、各国のベンチャーや現地スタッフと共に、ここオーストラリア北部のフェイズで、快適に暮らしています。欲を言えば、シーツと3シーズン用のシュラフがあれば便利ですね。こちらで覚えた英語はスラングばかりで、本を読む暇もありませんが、日本の歌本で楽しんでいます。プロジェクトの方は、専門家の指導の下に行われ、超専門的な知識は必要ありません。壁画探しの際見つけた素晴らしい光景には、大感動でした。充実した毎日です。

(6月9日・谷廉子)

私のマラリア顛末記

さっき日本からの手紙を読み終えたばかり。日本の情報には飢えているので本当に嬉しいです。

さて、一ヵ月間病気知らずだった私が、なんとマラリアにかかってしまいました。6月1日の朝食後、急に悪寒とだるさに襲われ、ただの風邪かと思っていると38.6°Cの高熱。医療係からマラリアとの宣告。ボウ然……。2日には、かなり回復。3日、平熱に戻るが頭痛と食欲不振で依然ベッドの中。4日、頭痛は残るもののほぼ完治。5日、ようやく普段の仕事に戻る。以上が、悪夢のような私のマラリア発病顛末記でした。

(6月8日・長谷川秀司)

PNGの食卓から

パプアニューギニアから、食生活のリポートです。こちらの主な食物は、穀類(米が日本の物と似ていて美味)、トロピカルフルーツ、肉類(野豚や鹿など)、魚類(40cmもあるエビや深海魚のような魚)など。僕は未体験ですが、ねずみやトカゲも食用です。カメは油っこくてまずかったですね。デザートに食べる、おかげにミルクをかけ砂糖とジャムで味付けしたライスプディングは、初め恐怖でしたが今では好物です。

昨日、食事当番だった僕と長谷川君は、バラマンディという魚をバターで焼き、なかなか好評でした。

(6月15日・山田穂積)

デンソーワールドワイドオペレーションNo.11

韓国

4年に1度の、2年後。



お隣の国、韓国は今、2年後のオリンピックをめざし準備で大忙し。日本につづき、アジアで2番めの開催国という大役を預り、「成功」の2文字をめざし国民一同張りきっているようです。この国でメーター類の製造販売を行っている〈豊星精密(株)〉。それは日本電装と豊星電機とが技術提携して、10年前に生まれた会社です。オリンピック一色の韓国でデンソーマンたちも、一緒になって胸をワクワクさせているようです。

豊星精密株式会社
所在地: WEADONG 853-5 Changwon, Kyongsang-Namdo, The Republic of Korea
売上高: 747万ドル(17億8,500万円)
従業員数: 642人 (1986年4月1日現在)

